

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 5 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370694

研究課題名(和文) 実務者会合における通訳の訓練教材開発

研究課題名(英文) Whispering interpretation training material development for business meeting

研究代表者

鶴田 知佳子 (TSURUTA, Chikako)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：40316782

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、複数話者が登場するウィスパリング通訳場面に即した教材を開発した。ヒアリングの結果では製薬業界、IT業界および金融業界で需要が多い現実を踏まえ、具体的な社内通訳(ウィスパリング形式)場面を想定した。製薬業界における製品開発の会合、IT業界におけるソフトウェア品質監査場面の教材の開発を行った。金融業界については、実在の企業IFM社の協力のもとで同社が日本の金融機関に商品説明する会合の教材を開発した。

研究成果の概要(英文)：This research study aimed at developing teaching materials for company meetings involving 'whispering' mode of interpreting. Whispering is used often at company meetings for relatively small number of foreign participants listening to speakers in mother tongue of that company. Usually an interpreter 'whisper' rendition to foreign participants. In the case of Japan when English speaking foreign visitor speaks in English that is rendered using consecutive interpreting to larger number of Japanese audience but the Japanese reaction is rendered in 'whispering' mode. According to hearings conducted as part of this research three industries, namely pharmaceutical, IT and financial industries were identified to have frequent needs for such interpreters. Specific teaching material for each of those three industries were developed with special emphasis on financial industry with full cooperation from IFM in actual business setting.

研究分野：通訳翻訳研究

キーワード：通訳 社内通訳者 実務者会合 教材開発

1. 研究開始当初の背景

高度職業専門人である通訳者の養成にあたり、昨今の通訳者に対するニーズを考慮に入れる必要があると思われる。一般的に国内では大学・大学院で通訳を学んだ後、フリーランス通訳者として活動を目指す場合、まず社内通訳者・翻訳者として経験を積むのが最近の傾向である。社内通訳者としての業務においては、主として外国人幹部が会議等に出席する際の通訳を担当する機会が多い。その際、通訳者は外国人幹部のために日本語で発話された会議の内容を簡易同時通訳装置を用いて同時通訳し、一方外国人幹部が英語で発言する際には、発話された内容を会議に参加する日本人母語話者に逐次通訳を行うものである。しかもビデオ会議や、電話により遠隔地より参加するという場合もある。

くわえて最近では、日産自動車株式会社の社長兼最高経営責任者であるカルロス・ゴーン氏を引くまでもなく、日本における外資系企業で英語母語話者でないが、英語を社内言語として駆使する外国人幹部も多い。したがって社内通訳者は非英語母語話者に日本語から英語で情報を伝えるとともに、英語母語話者ではない多様な英語を日本語に通訳するという課題を負っている。

(1)

ウィスパリング通訳は、東京外国語大学の学部・大学院において通訳を勉強した学生が就職した際に、社内通訳においてよく使う形式であるにもかかわらず、ウィスパリング通訳に特化した教材は、入手できるものが少ない。テーマ別にどのような分野で特に需要が多いかについて、社内通訳事情をヒアリングする必要があった。さらに、社内事情など体系だった学習が不可能な事象が多数含まれる場合の、自らリサーチを行う方法を身に着けるための自律的学習に

についても検討する必要があった。

(2)

社内通訳の分野として代表的な分野に詳しい専門家に事情を聴くこと、望ましい通訳のあり方とはどのようなものか、意見聴取を行うとともに東京外国語大学で通訳を学んだ卒業生で実際に業務についている者からヒアリングを行うことを考えた。

2. 研究の目的

(1)

社内通訳で用いられるウィスパリング通訳の際にどのようなスキルが重要となってくるのか。ウィスパリング通訳のスキルを身に着けるための重要な要素を抽出する。

(2)

ウィスパリング通訳スキルを訓練するための教材のスク립トを完成し、映像化および音声化して実際に使用できるようにする。

3. 研究の方法

(1)

面談した相手は、大学の通訳教育関係者および政府と民間企業双方の実務担当者にわたっている。国内においては本研究者の知己から特にIT/金融業界およびコンサルティング業界における通訳者需要についてヒアリングを行った。

社内通訳者として活動している卒業生からもヒアリングを行った。

(2)

ウィスパリング通訳が多く求められる場面を特定したうえで、教材開発を行うのに必要な場面設定についての研究を文献参照の上、通訳教育を行っている関係者に対して面談で行った。

4. 研究成果

(1)

面談相手として学术界、実務社会、通訳教育関係者および卒業生に話を聞くことができたことから、具体的に三つの業界、製薬

関係、ITと金融が特に需要が多いことがわかった。

(2)

社内通訳者をしている卒業生からのヒアリングをもとにして、製薬業界、ITおよび金融業界で実際に求められているスキルは複数方向である必要があることがわかった。

複数の話者が、同じテーブルについていて簡易同時通訳装置を使うということが確認された。

(3)

さらに三か所の大学および国際会議通訳者協会の通訳教育担当者にヒアリングをしたところ、上記の結果が裏付けられた。

ヒアリングをした担当者がウイスパリング通訳の際に求める点としては、具体的には以下の要望が出された。

周りの会議参加者が話していることを遅滞なく伝えるために、簡潔に要領よく訳出をする。

話者が話している内容が参加者に理解されるためには、外国の企業が日本に進出するという今回も製薬、ITと金融において取り上げたような場合においては、日本のコンテキストにおいて理解されるように、日本の業界の状況に即した訳出になっているのを確認する必要がある。

(4)

この結果を踏まえて、スクリプトを開発した。金融に関しては、IFM社に全面的な協力を得て東京外国語大学の卒業生が現場で通訳を担当した時の資料も入手の上、実際の通訳現場に近いかたちで、社内の参考資料を事前準備のための資料として用語を抽出するのに利用できる状態で、IFM社から社長が日本での金融製品セールスマーケティングのために訪問するという場面でのスクリプトを開発できた。

(5)

スクリプトについて、さらに精緻化を試みた。IFM社に問い合わせを行い、複数の試訳を経たうえで、スクリプトが適切であることを確認した。

(6)

東京外国語大学のスタジオを利用して、製薬関係、ITと金融についての音声化、映像化を行った。金融については、東京外国語大学の実践通訳翻訳領域のホームページを通じて公開している。

この教材作成において、ヒアリングで聴いた内容を反映させて、独自の教材とすることが出来たが、オリジナリティは主に3点に集約できる。

* 今までの教材にはない、現場そのもののオーセンティックな資料である

IMF社の金融サービス商品の紹介は、事前に通訳者が参考資料として得た資料についても公開している。通訳者は事前準備がどの程度出来たかによって、当日の訳出の成果が全く異なる。当日を迎える前に通訳者は、資料の中から訳語が決まっている専門用語については抽出してエクセル表などを用いて単語帳を作成、当日はその単語帳に基づいて通訳に臨む。

通訳教材を作成したでなく、準備段階の通訳者が必ず行う作業についても実際に使われた資料をもとに学ぶことができる。

* 事実、この企業は日本に進出して事務所を開設 現実の資料をとりいれている

準備会合において、東京外国語大学の卒業生が実際に通訳者を務めたが、その際に出た質問などヒアリングを行ったうえで、教材に取り入れている。机上の作成した教材

ではなくて実際にビジネス取引が行われている現場を踏まえている。

* 現場の臨場感をそのままに学べる

ウィスパリング通訳においては、発話者(この場合外国人)が日本人参加者とのあいだにウィスパリング通訳を経ながらビジネスを進めていくが、その際のやりとりを想定するのに使っているのは現実にあったやりとりである。

教材より具体例を2つ示す。

田中氏：なるほど、では、別の例で富裕層のお客様に何か銀行として別の金融商品を提案できるような事例を例示していただけますか。

Tanaka: I understand. Now, would you please give us another example of proposing a financial product to a high net worth customer from a bank?

Donohoe: Let me tell you a case of a wealthy client fully engaged with their bank, indicating their bank is the client's primary banking relationship. When looking at this client's income information, we notice consistent monthly deposits over time from their employer then a sudden transition from employment income to Social Security indicating they are retiring. This becomes an opportunity to market additional investments, insurance, or setting up a trust as the new lifestyle takes shape.

冒頭で説明している金融商品について、質問が出るという現場である想定に基づいて

いる。

新たにどのような事業機会が創出されるかという具体例を示している。

鈴木氏：顧客セグメントの分け方について具体的に100のセグメントとありますが、顧客によっては100にも分けられない場合もあり得ますね。セグメントわけを行ったあとは、具体的にどのような利用方法があり得るのでしょうか。

Suzuki: About the segments for clients, you specifically say 100 segments, but based on the type of client, that might not require distinguishing as many as 100. After you distinguish data into segments, what specific usage would that give us?

Donohoe: As I said, it all depends on the customer's situation, whether it is for one time investment or a longer time horizon, as in the previous example. Our job is to analyze transaction data using behavioral analysis so that we can determine the kind of financial activity that client has, and to make suggestions to the bank for that client so that the client can make good financial judgment.

さらに金融商品についての細かい質問が出ているが、この金融商品を使うことで何が得られるのか？何がこの会社の提供している強みについての説明へとつながっていく。

通訳者の役割とは、その場におけるコミュニケーションを円滑にすすめることによって、この場合には金融商品についてのビジネス展開が成功裏にすすむようなコミュニケーションの仲介をおこなうところにある。

専門性、正確性、迅速性が求められる仕事であるが、その業務の実際を現場で展開していくようなビジネスコミュニケーションを踏まえて、通訳演習を行える。そこに今回の教材の最大の特徴がある。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

鶴田 知佳子

多数国・地域が参加するイベントに向けた大学における通訳教育の試み、東京外国語大学論集、査読有、vol. 89、
No.1、2014、pp.301 - 325
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/82050>

鶴田 知佳子

東京外国語大学大学院における通訳実習指導、東京外国語大学論集、査読有、vol. 91、
No.1、2015、pp.215 - 228
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/84884>

TSURUTA Chikako

Conducting practicums: who is an ideal speaker?, Interpretation and Translation、
査読有、vol. 17、
No.1、2015、pp.215 - 236
<http://www.earticle.net/article.aspx?sn=257953>

鶴田 知佳子

特化コースの実績報告、東京外国語大学論集、
査読有、vol. 93、
No.1、2014、pp.151 - 178
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/88072>

[学会発表](計3件)

鶴田 知佳子

多数国が参加するイベントに向けた大学における通訳教育の試み 大学間連携を中心として、2014年9月13日~2014年9月14日、愛知学院大学

TSURUTA Chikako

A statistical approach to better practicum speaker、5th Asian Interpreting Symposium、2015年3月21日~2015年3月21日、Hankuk University of Foreign Studies

鶴田 知佳子

オバマ大統領 2016年一般教書演説の通訳にみる that 節の訳出方略、日本通訳翻訳学会

第17回年次大会、2016年9月10日~2016年9月10日、同志社大学
[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等
<http://tufs-interpreter.org/research.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

鶴田 知佳子 (TSURUTA, Chikako)
東京外国語大学・総合国際額研究科・教授
研究者番号：40316782

(2)研究分担者

内藤 稔 (NAITO, Minoru)
東京外国語大学・総合国際額研究科・講師
研究者番号：90507211

金田 拓 (KANETA, Taku)

帝京科学大学・総合教育センター・助教
研究者番号：10759905

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()